

赤池村誌



郷土史家・蟹江鉄五郎が赤池の歴史をまとめたもの。江戸時代の地誌から赤池に関する記述を抜き出し、項目ごとに紹介しています。赤池城と城主・丹羽帯刀秀信について記されており、他に赤池城にいた人物として、丹羽十郎右衛門、七右衛門の名が見られます。秀信の息子という可能性もありますが、詳細は不明です。

現在、赤池城の遺構は残っていませんが、中部電力変電所の南に石碑が建っています。昭和21年(1946)の航空写真を見ると、城の地割りと土塁の姿をはっきりと確認することができます。丹羽秀信が赤池に龍淵寺を創建した当時、赤池村誌境内の西側に淵があり、そこに龍が住んでいたため龍淵寺と号したそうです。また、寺の崖下から泉が湧き出て、村人はこれを閼伽水と呼んでいましたが、次第に大きくなり、閼伽池と呼ぶようになったといいます。これが「赤池」の由来とされます。